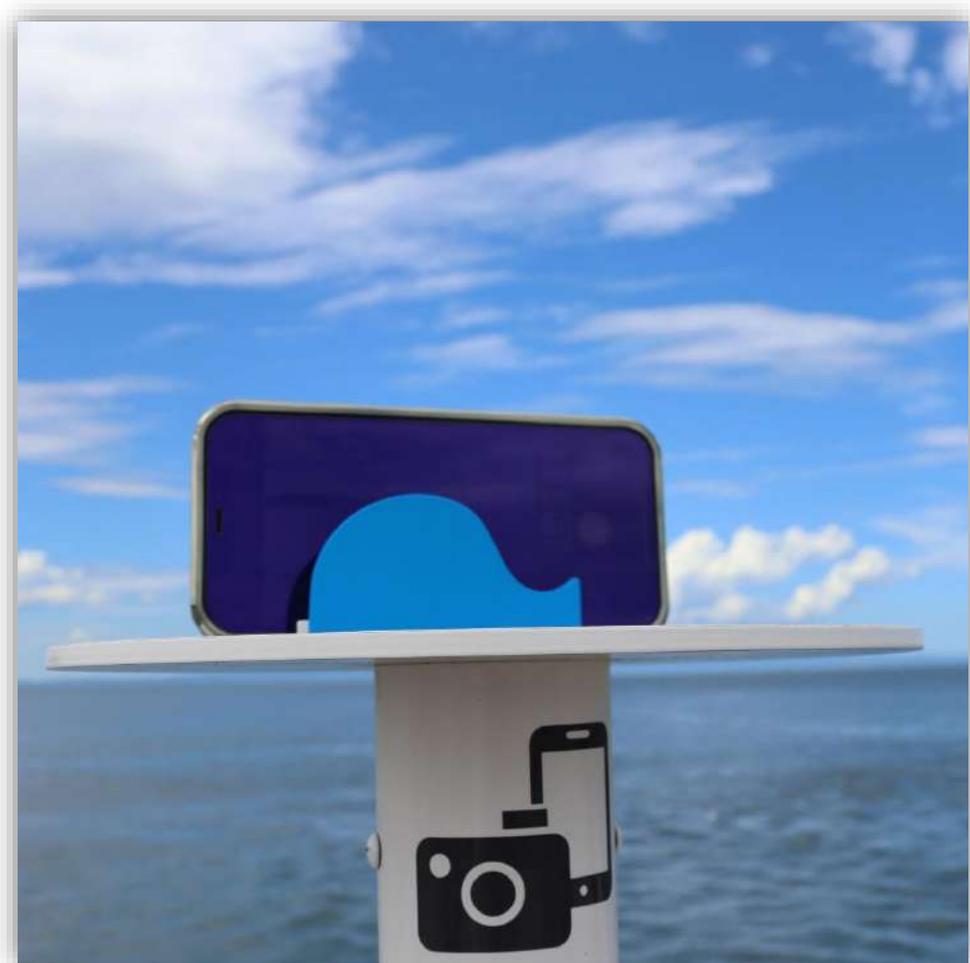


# TOYAMA BAY SELFIE SPOT



2022年3月

富山大学 富山湾アカデミーアライアンス  
TOYAMA BAY SELFIE SPOT 実行委員会

## 目次

- 1 TOYAMA BAY SELFIE SPOT プロジェクトのあゆみ
  - 1.1 TOYAMA BAY SELFIE SPOT のはじまり
  - 1.2 プロジェクトへの思い
- 2 富山湾観光
- 3 TOYAMA BAY SELFIE SPOT
  - 3.1 氷見市比美乃江公園への設置
  - 3.2 富山湾岸各市町への展開
    - 3.2-1 「美しい富山湾クラブ総会」での提案
    - 3.2-2 各市町設置までの流れ
- 4 TOYAMA BAY SELFIE SPOT 設置後の取り組み
  - 4.1 「とやまべいフォトコンテスト 2021」の開催
  - 4.2 「Discover TOYAMA」の合成機能アプリ開発と T-Messe への参加
  - 4.3 広報活動
    - 4.3-1 チラシ・ポスター
    - 4.3-2 新聞・フリーペーパー・行政広報誌
    - 4.3-3 SNS
- 5 これからの TOYAMA BAY SELFIE SPOT の役割とは
- 6 このプロジェクトに参加して
- 7 感謝と展望
  - ・収支決算
  - ・謝辞

## 1 TOYAMA BAY SELFIE SPOT プロジェクトのあゆみ

### 1.1 TOYAMA BAY SELFIE SPOT のはじまり

2019 年後期、経済学部での講義である高桑幸一先生の「地域観光資源の活用演習」からこのプロジェクトが始まった。この講義では、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している富山湾にスポットを当て、富山湾の環境、観光、観光インフラ、イベントなどを各分野の専門家から講義を受ける内容であった。

講義に加えて、富山湾観光について現地調査をする機会も設けられていた。現地調査では外国人観光客というペルソナを設定した上で富山湾観光をした。行き先の調査、交通、観光や食事、買い物の行動、SNS での発信に至るまでひとつひとつの行動に対しての内容と課題を見つけた。講義の最終回には「富山湾観光を盛り上げていくための提案」として受講者が現地調査で実感した富山湾観光の現実と見えてきた課題を踏まえて調査、交通、観光、食事、買い物、情報発信の各テーマから提案発表を行った。この提案発表には講義して下さった株式会社 WAVE 滑川の小林様、氷見高校海洋科学科の吉田先生、一般社団法人氷見市観光協会会長の松原様にも参加していただいた。

提案発表の中でも魅力的で現実的な内容がカメラスタンドを設置することであり、一般社団法人氷見市観光協会会長の松原様をはじめ、先生方に好評をいただいた。美しい富山湾を背景に写真が撮影できるカメラスタンドがあることでひとつの観光地を盛り上げる役割を担い、SNS での発信にも繋がる。このアイデアがきっかけとなり、TOYAMA BAY SELFIE SPOT の設置やその後の活動に取り組んできた。そして、アイデアとして提案されたカメラスタンドが実現する運びとなった。

### 1.2 プロジェクトへの思い

2019 年後期の講義「地域観光資源の活用演習」の受講がきっかけとなり、TOYAMA BAY SELFIE SPOT の提案段階からカメラスタンドの設置、その後の TOYAMA BAY SELFIE SPOT を活用した活動に至るまでを経験してきた。大学生活の中でも最も多くの時間をこのプロジェクトに当て、関係市町をはじめとする行政、設置や宣伝、賞品に至るまで各種関連企業とのやりとりを通して 1 つのアイデアを形にしてきた。一連の TOYAMA BAY SELFIE SPOT プロジェクトの総括として、支えてくださった方々に感謝の気持ちを伝えたいという思いと同時に今後も TOYAMA BAY SELFIE SPOT がカメラスタンドという役割を超えた存在になってほしいという思いがある。

そのため、この報告書を通して現在の富山湾観光に位置づけている TOYAMA BAY SELFIE SPOT の経緯を整理する。また、この一連のプロジェクトでは、カメラスタンドを設置できた喜びの背景には乗り越えなければならない壁が沢山あった。難題にも立ち向かった経験をまとめることでこれからの TOYAMA BAY SELFIE SPOT が幅広く活躍される次のステップへ繋げたい。

## 2 富山湾観光

富山湾と言うと誰もが最初に想像する事は「食」であるだろう。天然の生け簀と呼ばれる富山湾では白エビ、ホタルイカ、寒ブリなどの海の幸は有名である。そして、海の幸だけではない富山湾の魅力が富山湾観光である。富山湾観光の代表となる事が富山湾を体感できる観光船、富山湾岸沿いを巡るサイクリング、富山湾を背景に写真や動画を撮影できるTOYAMA BAY SELFIE SPOTである。図-1のように富山湾観光はサイクリングルート沿いに観光船の乗り場や TOYAMA BAY SELFIE SPOT のうちの 8 箇所が存在している。

図-1 富山湾観光の主な場所



富山湾岸クルージング HP、ほたるいかに海上観光 HP、氷見沖クルージング HP、白えび観光船 HP、富山サイクルナビ HP、Google マップより 2022 年 1 月 6 日筆者作成

### 3 TOYAMA BAY SELFIE SPOT

富山湾岸各市町 9 箇所に 2020 年、2021 年に設置したカメラスタンド、およびカメラスタンドの設置やカメラスタンドを活かしたプロジェクト一連を「TOYAMA BAY SELFIE SPOT」と名付けて取り組んだ。現在 TOYAMA BAY SELFIE SPOT は氷見市の比美乃江公園展望台、高岡市の道の駅雨晴、射水市の海王丸パーク、富山市の水橋フィッシャリーナ、滑川市のウェーブパークなめりかわ、魚津市の海の駅蟹気楼、黒部市の魚の駅生地、入善町の舟見城址館、朝日町のヒスイ海岸にある。

2019 年後期経済学部の講義「地域観光資源の活用演習」でのアイデア提案がきっかけとなり、2020 年 6 月 29 日に開かれた美しい富山湾クラブ実行委員会にてカメラスタンドの設置についての説明、2020 年 7 月に「世界で最も美しい富山湾活用事業費補助金」を申請し、7 月 22 日に交付されたことで 9 月より実現に向けた活動が本格的にスタートした。

#### 3.1 氷見市比美乃江公園への設置

2020 年 9 月 24 日に第 1 回カメラスタンド実行委員会が開かれた。実行委員会では学生や氷見市観光交流課、設置や企画を担当する各企業、デザインや観光誘致、IT による観光のアドバイザーとして富山大学の工学部、都市デザイン学部、芸術文化学部の先生方にも入っていただいた。1 回目の内容としてはカメラスタンドについての概要説明、具体的な設置場所、カメラスタンド本体の素材やデザインについて議論された。

カメラスタンドは全国の観光地にも設置されており、既存の製品としても販売されている。カメラスタンドがあることによってスマートフォンやカメラ等をセッティングして気軽に写真を撮影できることが魅力である。今回、カメラスタンドを設置することで美しい富山湾を背景に自撮りがしやすくなるため、写真が撮りたくなるような空間作りをすることができる。

また、SNS が主流な現在では、撮影した写真や動画は簡単に自ら発信することができる。そのため、カメラスタンドにハッシュタグを掲載することで富山湾を新たな形でのブランディング向上に繋がると考えた。そして、周辺の観光情報を QR コードとしてカメラスタンドに掲載することで設置場所だけではなく、周辺の観光や次なる目的地の決定など旅行として周辺施設の活性化になる。このようにカメラスタンド 1 つで多様な役割を担う存在にしていくことを実行委員会で共有した。

2019 年後期の提案の際には一般社団法人氷見市観光協会の会長より好評をいただいたことから氷見市への設置が決定しており、実行委員会では氷見市観光交流課の担当者にも意見やアドバイスをいただきながら場所やデザインの検討を行った。そして以下の 4 箇所の候補地に絞り、10 月 1 日に現地調査を実施し、10 月 8 日の第 2 回実行委員会での多数決が行われた。

#### 【カメラスタンド設置候補地】

- ・比美乃江公園 展望台
- ・比美乃江公園 美しい富山湾クラブモニュメント付近
- ・比美乃江公園 幸福を呼ぶ鐘付近
- ・ひみ番屋街 展望台

これらの候補の中から多数決の結果、設置場所が比美乃江公園展望台に決定した。決定要因としては、ひみ番屋街や比美乃江公園の駐車場から近く、アクセスがしやすいこと、展望台を登ると正面に唐島、向かって右方向に氷見漁港、左方向に阿尾城跡が見えることで氷見らしい富山湾が一望できることが挙げられた。

カメラスタンドの素材としては海への耐久性が求められた。潮風によってサビや早期の老朽化を防ぐためにも使える素材に関しては念入りに議論され、素材やデザインの専門家である富山大学芸術文化学部の先生の意見も参考にした。その他にも富山大学の先生方から意見をいただきながらハッシュタグと観光情報の QR コードの掲載、富山湾をイメージしたデザインをテーマとして機能性とデザイン性を重視したカメラスタンドの実現を目指して何度も試作や話し合いを重ねた。

#### 【カメラスタンドのコンセプト】

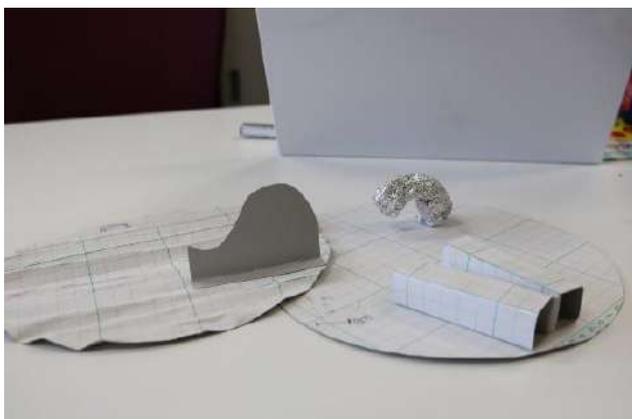
- ・設置場所が富山湾のカメラスポットであること
- ・潮風や降雪に耐え、メンテナンスフリーであること
- ・スマートフォンの幅やケース、リングなどのアクセサリに関係なく使えること
- ・タブレット端末、カメラで撮影する人にも対応できること
- ・景観を阻害しないようにシンプルであること
- ・角度を変えて使用できること
- ・カメラスタンドとして通りすがりの人にも分かってもらえること

以上の点を考慮しながらデザインの決定に向けて動いた。話し合いや試作品作成の際、特に頭を悩ませた点がどのようなスマートフォンや端末にも対応できる必要があることである。端末を面として支えるのか、点として支えるのか、手帳型のスマートフォンケースの場合はどうのように使うのか、ケースを付けていないような薄いものでも立てられるのか。このように多様な端末に対応できるデザインを検討し、**図-2** のような試作品を様々な形で作成した。

そして、次々出てくる問題点にも対応しながらたどり着いたデザインは、**図-3** のように幅の異なる 2 つの仕切りを作り、端末に応じた幅のところに設置してもらえるようにすること、ストッパーとなる前後を面で支え、富山湾をイメージした波形にすることに決定した。第 1 回目から議論を重ねてきたカメラスタンドのデザインを決定するまでに 1 ヶ月半かか

った。その後は現地で模型を使った撮影の実験をはじめ、風景と人物が写り、操作もしやすいカメラスタンドの高さや設置場所をミリ単位で決めた。

図-2 デザイン検討 試作品



2020年10月26日筆者撮影

図-3 天板 最終デザイン



有限会社真栄工芸 設計図案

カメラスタンド本体のデザインや設置場所を決定後、広報活動をしていくための準備をし、設置日を待った。

#### 【広報活動】

- ・チラシの作成
- ・Instagram、Twitter、FacebookのSNS開設
- ・メディアへのプレスリリース

上記の内容を主として幅広い人に知ってもらえるようにした。新たな富山湾観光の目玉にもなれるように、このカメラスタンドを「TOYAMA BAY SELFIE SPOT」を名付けた。富山湾で自撮りをする場所という意味を持ち、地元の人、国内からの観光客、さらには海外からの訪日観光客にも使ってもらい、新たな富山湾の魅力を発信できる場所になってほしいという願いを込めた。

チラシでは、P27で紹介する図-38、図-39が完成品である。氷見市比美乃江公園展望台に設置することにあたり、展望台から眺められる景観の紹介、カメラスタンドでのおすすめの撮影方法、海越しの立山連峰を美しく見ることができる時期を含めた内容で作成した。写真の選択や周辺地図の掲載、「いい旅氷見旅ここにあり」「いっぺん写真撮りにこられ～」といったフレーズにもこだわり、注目してもらえることを心がけた。

SNS はカメラスタンド設置直前となる 2020 年 12 月 8 日に Instagram、Twitter、Facebook を開設した。メディアへのプレスリリースとなるお披露目の日までのカウントダウンを行い、新たに始まる富山湾観光の魅力を発信するツールとなった。

このように様々な手段での広報活動に力を入れながら 2020 年 12 月 11 日に TOYAMA BAY SELFIE SPOT 第 1 号が比美乃江公園展望台に設置された。デザインや機能を重視して議論を重ねたカメラスタンドが完成した喜びを感じながら図-4 のように撮影体験をした。また、設置直後には実際に氷見へ観光に来られていた富山県外からの観光客にも使っただけ、早速カメラスタンドとしての役割、SNS への発信、観光情報の集取など観光地の 1 つとして機能していた。

そして設置から 1 週間後となる 12 月 18 日にはメディア、美しい富山湾クラブの関係者の皆様にお披露目を行った。お披露目を通してカメラスタンドの役割や機能性を周知していただけるようなプレゼンをした後、氷見市林市長と実際に写真を撮影し、TOYAMA BAY SELFIE SPOT の本格的な始動となった。冬の季節には氷見市は寒ブリが有名なことや、展望台から眺める唐島と立山連峰が綺麗に見えることから訪れる方が次々と自撮りを楽しめる場所になっていった。

図-4 設置直後の撮影風景



2020 年 12 月 11 日 株式会社 PCO 撮影

図-5 カメラスタンドと背景景色



2021 年 12 月 1 日筆者撮影

### 3.2 富山湾岸各市町への展開

氷見市比美乃江公園に TOYAMA BAY SELFIE SPOT を設置してから何度か比美乃江公園に足を運んだが、訪れるたびにスマートフォンをカメラスタンドにセットし、撮影をしている姿が見られた。少しずつハッシュタグ付きの SNS 投稿も増え始めてきた頃、当初の目的の 1 つである富山湾観光の新たなブランディング向上をするための次なる 1 歩として、富山湾岸各市町への展開を進め始めた。

展開の流れとしては美しい富山湾クラブ総会での提案、各市町との調整や交渉、現地調査、設置の順に行われる。また、設置後はその市町の所有として管理していただくため、要望にも応えていく必要がある。

### 3.2-1 「美しい富山湾クラブ総会」での提案

2021年4月24日に開かれた美しい富山湾クラブ総会にて富山湾岸各市町での TOYAMA BAY SELFIE SPOT プロジェクトの事業計画が承認された。総会では富山県知事をはじめ、富山湾岸の各自治体や観光業者など関係者約50名が出席しており、氷見市比美乃江公園での設置についての経緯や今後の展開として氷見市を除く8市町に設置することを提案した。

TOYAMA BAY SELFIE SPOT プロジェクトにあたり、富山県の「世界で最も美しい富山湾活用事業費補助金」の活用と美しい富山湾クラブからの資金援助によってカメラスタンドの設置や各種調査、広報、イベントの開催が実現している。そのため、美しい富山湾クラブ総会での承認及び協力がなければ成り立たない事業である。カメラスタンド本体にも図-6のような美しい湾クラブと図-7のような富山湾のロゴマークがあり、協同のプロジェクトとも言うことができる。

2021年度の TOYAMA BAY SELFIE SPOT の動きとして4月24日の総会にて、6月8日の美しい富山湾クラブ実行委員会にて各市町の設置場所を協議、7月中旬にカメラスタンドを設置、設置後の7月下旬からカメラスタンドを用いたフォトコンテストの実施を提案し、無事に承認を得ることができた。

図-6 美しい湾クラブロゴマーク



2021年7月27日筆者撮影（ヒスイ海岸）

図-7 富山湾ロゴマーク



2021年7月29日筆者撮影（魚の駅生地）

### 3.2-2 各市町設置までの流れ

「美しい富山湾クラブ総会」の後、早速氷見市を除く富山湾岸各市町へ「TOYAMA BAY SELFIE SPOT の各市町展開とご協力について」の依頼文書をメールにて送信した。依頼文書では TOYAMA BAY SELFIE SPOT を富山湾岸各市町のベストスポットに設置し、設置後にはカメラスタンドを活用したフォトコンテストを実施すること、大体のスケジュールについて伝えた。

また、メールには設置場所回答依頼書を添付し、各市町の行政や観光協会にカメラスタンドを設置するのにふさわしいベストフォトスポットを選定していただいた。ベストフォトスポットの回答期限を6月7日までとし、1ヶ月以上の期間を設けて海風や人の行き来を考慮した各市町の条件に合わせたカメラスタンド設置の候補地を挙げていただいた。

5月19日には氷見市を含めた富山湾岸9市町へフォトコンテストの詳細となる提案文書をメールにて送信した。この提案文書ではフォトコンテスト開催中の広報活動へのご協力やフォトコンテストを開催するにあたり、各市町ベスト賞の賞品準備と賞の選定をお願いした。そして、市町ベスト賞の賞品案をベストフォトスポットの候補地とともに6月7日までに期限として回答を依頼した。

5月19日、富山県へ令和3年度「世界で最も美しい富山湾活用事業費補助金」の交付申請書を提出した。TOYAMA BAY SELFIE SPOT 設置とフォトコンテストの実施を掲げた事業計画書、収支予算書、TOYAMA BAY SELFIE SPOT 企画案、各市町への申請例となる「TOYAMA BAY SELFIE SPOT の各市町展開とご協力について」の文書、広報例となる氷見市に設置した際のチラシとともに補助金を申請した。補助金が7月22日に交付され、活動費として活用した。

2021年度 TOYAMA BAY SELFIE SPOT プロジェクトの各市町への展開とフォトコンテストの開催では令和3年度「世界で最も美しい富山湾活動事業費補助金」200,000円、美しい富山湾クラブ補助金約1,000,000円を収入として一連の事業を実施した。支出面ではカメラスタンドの制作と設置費、フォトコンテストの賞品、現地調査費、広告費等で使用した。

それでは、高岡市、射水市、富山市、滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町の順で依頼文書提出後の動きや設置までの流れを紹介する。

## 【高岡市】

高岡市からベストフォトスポットとして「道の駅雨晴」が選定され、5月24日に現地調査を実施した。学生やカメラスタンドの制作や設置をする有限会社真栄工芸、高岡市観光交流課、道の駅雨晴を管理する都市計画課、道の駅雨晴の建設担当である営繕課の担当者立ち会いのもと、道の駅雨晴のウッドデッキでの設置を検討した。

氷見市の設置個所は土台がコンクリートであったことに対して高岡市の場合は、コンクリートから数センチ空洞があり、その上にウッドデッキが敷かれている構造になっている。そのため、コンクリート部分で固定し、ウッドデッキとなる部分ではスタンドのポールに合わせてくり抜いて設置することが決定した。

カメラスタンドにスマートフォンを固定して撮影すると図-8のように道の駅雨晴のシンボルとなっている鐘と富山県のPRにも度々登場する女岩、海越しの立山連峰が眺められるため、絶景を背景に撮影することが可能となる。道の駅雨晴は高岡市が所有している施設であるため占用許可を高岡市に申請し、7月28日に高岡市 TOYAMA BAY SELFIE SPOT が完成した。車、バス、電車など様々な交通手段で訪れることができる場所であり、富山湾や女岩を撮影する地元の人、観光客も多くいる。そのため、次々と有名な富山湾の景色と共に自撮りがしやすく、撮影を楽しむ人が増える場所になった。

図-8 カメラスタンドと背景（高岡）



8月19日筆者撮影

図-9 カメラスタンドから撮影



7月28日カメラスタンドより撮影

図-10 本体



8月19日筆者撮影

## 【射水市】

射水市からベストフォトスポット候補として海王丸パークと海老江海浜公園が挙げられた。

海王丸パークでは恋人の聖地として人気を集めていたり、海王丸と新湊大橋が一望できる場所であったり、展望台からは青く広がる富山湾を一望できたりと広いパーク内には魅力が溢れている。また、イベントの開催や公園が無料で開放されていることから、令和元年には1,117,729人が訪れており、富山県内の観光地や観光施設では3番目の多さを誇っている。

一方で海老江海浜公園では海水浴場としての人気があり、県内在住の多国籍な人たちを中心に夏場は盛り上がりを見せている場所である。富山湾の海を間近で感じられる場所であることから海水浴だけではなく、新たな自撮りを目的に人が訪れることができる場所になればという思いから候補を挙げていただいた。

6月16日には射水市港湾・観光課の担当者と学生で候補地を調査し、カメラスタンドから見える景色や土台構造を比較した。その結果、射水市からの景色と言えば海王丸パークと言えるほど有名な場所でのカメラスタンド設置を市と学生が合意した。その中でも海王丸パーク内5箇所での候補地に絞られた。現地調査後、射水市と富山伏木港・海王丸財団との確認作業が行われ、**図-11**のような海王丸と新湊大橋を囲むような広場の階段踊り場に場所が決定した。その他の候補地では人や車両、機械除雪機の動線上にあることやポールの強度不足から除雪時に破損の心配があること、階段の高い部分では転倒の恐れがあることから**図**のように具体的な場所が確定した。

7月13日には占用許可があり、7月28日に射水市 TOYAMA BAY SELFIE SPOT が完成した。昼夜問わず、幅広い年代の人が散歩や観光に訪れており、その日の海王丸と新湊大橋を背景に思い思いのポーズでの撮影が楽しい場所になった。

図-11 カメラスタンドと背景（射水）



9月19日筆者撮影

図-12 カメラスタンドから撮影



7月30日カメラスタンドより撮影

図-13 本体



8月19日筆者撮影

## 【富山市】

富山市からベストフォトスポットとして水橋漁港の防波堤付近が推奨された。水橋フィッシャリーナは釣り場やプレジャーボートの係留所として多くの人に利用されている場所である。ただし、2017年の台風による親水防波堤や海上係留破損の経験から風速40メートルに耐えられることが条件となり、波の影響を受ける可能性を考慮して設置できる場所は限られた。

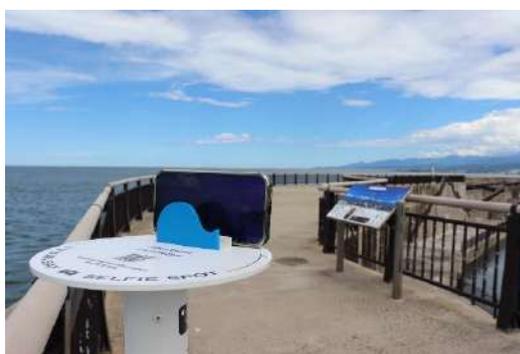
6月16日には富山市観光政策課立ち会いのもと、実際の設置場所の検討を行った。プレジャーボートの奥に立山連峰が一望できること、古志の松原や夕日に照らさせる富山湾も眺められることを実際に感じる事ができる場所であり、釣り場を越えたフォトスポットとしての新たな魅力を創出できる場所になると想像できた。

風速40メートルに耐えることについては設置していただく有限会社真栄工芸に強度計算を算出していただき、設置の約2週間前に富山市へ提出し、申請許可を請願した。その後、夜間事故等を防ぐことでの安全確保のため、ライトの装備や設置場所の変更が要請されたため、7月14日に再度現地調査を行い、具体的な場所を確定させた。

7月20日に占用許可が無事におり、7月26日には富山市 TOYAMA BAY SELFIE SPOT が完成した。完成の喜びを味わっていた直後、水橋フィッシャリーナの指定管理者であるNPO 法人浦島倶楽部からのお叱りのお言葉を頂戴し、学生は大きなミスをしていたことに気づき、反省して今後の活動で改善することを誓うことになった。それはカメラスタンドの設置について直接説明していなかったことである。計画段階から施設に対して主体となる学生からの説明があることで理解が進み、より良いアドバイスを頂けていたかもしれない。学生は企業や行政と活動する上での常識について学ばせていただける機会となった。

カメラスタンドは360°回転する機能を発揮し、どの角度からも異なった魅力を背景に撮影が楽しめる場所へと変化し、学生の行動だけではなく、水橋フィッシャリーナの魅力もパワーアップしていく第一歩を踏み始めた。

図-14 カメラスタンドと背景（富山）



8月20日筆者撮影

図-15 カメラスタンドから撮影



7月26日カメラスタンドより撮影

図-16 本体



7月26日筆者撮影

## 【滑川市】

滑川市からベストフォトスポットとして滑川海岸護岸が挙げられ、6月16日には滑川市観光課、観光協会の担当者とともに海岸護岸、ほたるいかミュージアム裏のデッキ、観光協会2階にある展望台を見学させていただいた。それぞれの場所にはメリットとデメリットがあること、海岸護岸では取り外しが条件になることが明らかになった。

### ① 海岸護岸：

- + 開けた海との近さ
- 海と逆方向は柵等がないため転落の危険があること

### ② ほたるいかミュージアム裏のデッキ：

- + レストランと隣接しているためより多くの人が行き来しやすいこと
- カメラスタンドからは海があまり映らないこと

### ③ 展望台：

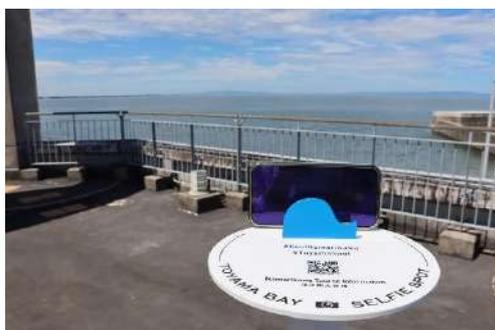
- + 360°を通して富山湾や山々、船など多様な景色が広がること
- 人の行き来が少ないこと

以上を踏まえて市を通じて①海岸護岸の申請を行ったが、管理している富山県新川土木センターから海岸護岸で設置する場合、将来海岸工事を施工する際には車両にカメラスタンドのポールが当たってしまうため設置場所を堤防に寄せる必要があると指摘された。しかし、転落の可能性が増えたり、カメラスタンドとしての操作が難しくなったりすることに繋がるため安全性や利便性が確保されない。

7月26日に他の候補地として挙がっていたほたるいかミュージアム裏のデッキと展望台で設置場所を決めることになった。滑川市が管理している展望台では占用許可が比較的おりやすいこと、富山湾をよく眺められることから最終的に場所が決定し、7月29日に滑川市 TOYAMA BAY SELFIE SPOT の設置工事が行われた。

完成直後には富山県のご当地キャラとして滑川市を中心に活躍しているばいにゃこさんと撮影を体験した。展望台として青い富山湾や緑の山々といったあらゆる角度からの景色を眺め、360°景色と共に自撮りができる場所になった。

図-17 カメラスタンドと背景 (滑川)



8月20日筆者撮影

図-18 カメラスタンドから撮影 図-19 本体



7月29日カメラスタンドより撮影



8月20日筆者撮影

## 【魚津市】

魚津市からベストフォトスポットとして海の駅蟹気楼の北防波堤付近が挙げられた。図-20のように目の前にはベンチがあり、写真のバリエーションが増えることや、海を眺めた時に目に入る消波ブロックが印象的な場所である。

魚津市商工観光課の担当者立ち会いのもと、6月9日に現地調査を実施した。北防波堤付近を中心に海の駅蟹気楼内、蟹気楼展望の丘、海の駅蟹気楼2階展望台、海の駅蟹気楼から北防波堤付近に向かう途中にある小さな陸橋、海の駅蟹気楼の入り口にある世界で最も美しい富山湾のモニュメント付近、海の駅蟹気楼から数百メートル離れた海沿いの公園など様々な場所で検討した。背景となる写りやアクセスのしやすさを考慮して現地調査した学生の中では最終的な候補地を決定できずに現地調査が終了した。

1週間後の6月16日に再度現地を訪れ、当初ベストフォトスポットとして魚津市より挙げられた北防波堤付近が360°景色の素晴らしさが他の候補地と比較しても目立っていたことから場所を決定した。正面に消波ブロックとキラキラ輝く富山湾が広がり、ベンチに座りながらも写真を撮影できること、180°回転すると魚津埋没林博物館や立山連峰が眺められること、遠近法を活用した様々な撮影が楽しめることが魅力となる。

欠点としては海の駅蟹気楼から5分ほど歩いて移動する場所にあり、設置場所が分かりづらいことが挙げられる。施設だけではなく、海沿いの散歩や釣りをきっかけに富山湾について感じてもらえるため、新しい魚津の形として多くの人に足を運んでもらえるための工夫が必要であると強く感じた。

そして、7月に入り、占用許可の申請も問題なく進み、無事に許可がおりたことで7月29日に魚津市 TOYAMA BAY SELFIE SPOT が完成した。富山湾と消波ブロック、魚津埋没林博物館、立山連峰、ベンチ、防波堤など1箇所での撮影としては多様な撮影スタイルが可能であり、海を見ながらもゆっくり流れる時間を感じられる場所になった。

図-20 カメラスタンドと背景（魚津）



9月21日筆者撮影

図-21 カメラスタンドから撮影



7月29日カメラスタンドより撮影

図-22 本体



7月29日筆者撮影

## 【黒部市】

黒部市からベストフォトスポットとして魚の駅生地が挙げられた。新鮮な海の幸を販売し、飲食も可能な場所であることから富山湾を食として楽しめる場所である。6月8日に開かれた美しい富山湾クラブ実行委員会で、くろべ牧場まきばの風から黒部平野と富山湾が眺められるとの意見があったことから2箇所の候補地について検討するため6月21日に現地調査を行った。

黒部市商工観光課の担当者、魚の駅生地の管理者とともに魚の駅生地を見学した。新鮮な海鮮を求めて訪れる方や休憩に立ち寄る方などで賑わっていた。施設内のオープンテラスから黒部の漁港や「蘭丸」と書かれた船、テラス内にある足清水が見渡せる。直接、湾が広がっているわけではないが、食や観光と富山湾を繋げる場所となり、富山湾を身近に感じられる場所である。近隣には海底地下道での海中散歩、生地湧水めぐり、世界でも珍しい巡回式可動橋生地中橋と地域一帯で楽しめる場所がある。地域の魅力や魚の駅生地、「蘭丸」の船や足清水を背景に撮影利用者が多くなることが想像できた。一方で魚の駅生地と「蘭丸」の間には一般道があり、車が背景に映り込むことが課題となった。

その後、くろべ牧場まきばの風を訪れると、ヒツジやヤギ、ウサギ、牛、ポニーなど多くの動物が草原にいた。富山湾が一望できる場所であり、平日にもかかわらず家族や友人と訪れている人たちがいた。動物たちや黒部平野、富山湾を背景にカメラスタンドで撮影できることは富山湾の広さを伝えられるきっかけになると考えられたが、黒部市商工観光課の判断で魚の駅生地に設置することになった。

また、新たな条件としてイベント時などに移動できるような作りが求められた。有限会社真栄工芸にお願いし、土台をコンクリートとして強度を保たれながら移動が可能な形にしていた。条件を満たし、黒部市からの承諾を得た上で7月29日に予定していた魚の駅生地オープンテラスへ配置が完了し、黒部市 TOYAMA BAY SELFIE SPOT が完成した。魚の駅生地へ訪れた記念や船や周囲の雰囲気を感じた1枚を撮影できる場所になった。

図-23 カメラスタンドと背景（黒部）



10月27日筆者撮影

図-24 カメラスタンドから撮影



7月29日カメラスタンドより撮影

図-25 本体



7月29日筆者撮影

## 【入善町】

入善町ではベストフォトスポットとして舟見城址館付近の碎石敷が選定された。学生の中では舟見城址館について場所や施設について知っている人がおらず、場所について調べるところから始まった。他の設置場所は海の近くの施設や場所が多かったが、舟見城址館は山間部にあることから富山湾がどのように見えるのかが課題と考えた。

6月23日に行った現地調査では、入善町キラキラ商工観光課の担当者立ち会いのもと、学生全員が初めて舟見城址館を訪れた。車で現地に向かう道中、細く車のすれ違いが難しい坂道があり、不安を感じながらも現地に到着した。立派なお城や緑が広がる広場、昔の暮らしを感じられるような資料館、遊具のある公園など、学生が想像していた以上に自然や歴史を体感できる素敵な施設が揃っていた。

舟見城址館裏にある碎石敷からは、入善平野と富山湾が一望でき、海の近場とは景色が異なり、富山湾の見え方が新鮮であった。現地調査では、碎石敷と舟見城址館内で設置を検討するために双方から景色の見え方、人の撮影のしやすさを考慮して調査を実施した。

碎石敷は土台が土と砂利であり、カメラスタンドを固定するためにはコンクリートを埋め込むことが必要になるが、人と風景との組み合わせはバランスの良さが引き立っている。一方で舟見城址館内での設置を考えると、お城の2階は外へ行くことができるが、広さが充分にないこと、カメラスタンドを設置しても人が大きく映ることから景色が綺麗に入らないことが明らかになった。これではスマートフォンを手に持った自撮りと変わらない写真になることから、碎石敷での設置が決定した。

現地調査後、有限会社真栄工芸とのコンクリート土台の設置について何度もやりとりを重ね、入善町が管理していることもあり、早期に占用許可もおりた。そして、7月27日に入善町 TOYAMA BAY SELFIE SPOT が完成した。設置工事では、山間部ということで蜂やその他虫が活発に生息していることから、安全面を配慮しながら工事は行われた。設置後には、安全に撮影を楽しむことができるような整備も行った。そして、山間部から眺める富山湾を背景に撮影や自然を感じられる場所になった。

図-26 カメラスタンドと背景（入善）

図-27 カメラスタンドから撮影

図-28 本体



10月7日筆者撮影



10月27日カメラスタンドより撮影



7月29日筆者撮影

## 【朝日町】

朝日町ではベストフォトスポットとしてヒスイテラス裏のヒスイ海岸が選定された。ヒスイ海岸はエメラルドグリーン其自然海岸であり、海からヒスイが打ち上がる珍しい環境が整う場所である。夏には海水浴に訪れる人やヒスイを探しに来る人など地元の方や観光客にとっても身近な海として賑わいを見せている。2018年に完成したヒスイ海岸観光交流拠点施設ヒスイテラスとも隣接している場所がカメラスタンド設置候補となり、訪れた多くの人に需要があると考えた。

6月23日に行った現地調査では、朝日町商工観光課の担当者立ち会いのもとヒスイテラス内、ヒスイテラスから海岸へ向かう途中にある階段、小さな橋など複数箇所カメラスタンド模型とともに画角や背景、人が映る時のバランスを検証した。現地調査では橋の上への設置が有力だとまとめ、設置に向けて寸法を測り、具体的な設置場所を決めた。

占用許可が出るのが遅れ、気に病んだが、各所のご協力をいただき、カメラスタンド設置当日、富山県新川土木センターから占用許可がおりたことでカメラスタンドの設置は無事に行われた。カメラスタンドの設置が許可されない場合にはヒスイテラス内に立てることを考えたり、工事を延期すると、次に都合が合う日はいつなのか再検討が必要になるという話があったりと初めて行政と企業と連携して事業をすることの難しさを目の当たりにした。

そのような中でも私たち学生の希望に必死に動いてくださる行政の方々や雨の中でも汗水流してカメラスタンドを設置してくださる企業の方々に間近で見て学生の立場から学ぶことがたくさんあった。様々な困難に立ち向かい、乗り越えて7月27日に朝日町 TOYAMA BAY SELFIE SPOT が完成した。多くの人に支えられて完成した TOYAMA BAY SELFIE SPOT からは正面には図-29のように壮大に広がるヒスイ海岸、180°回転するとヒスイテラスが背景となって朝日町の自然風景、富山湾の素晴らしさが広がる場所になった。

図-29 カメラスタンドと背景（朝日）



8月27日筆者撮影

図-30 カメラスタンドから撮影



10月27日カメラスタンドより撮影

図-31 本体



10月7日筆者撮影

## 4 TOYAMA BAY SELFIE SPOT 設置後の取り組み

富山湾岸9か所に TOYAMA BAY SELFIE SPOT という新しい富山湾観光の発信源が出来たが、カメラスタンドが完成して満足するのではなく、存在を知ってもらえる機会を創出し、認知度を上げる広報活動を行うことによって、多くの人に愛される場所になってもらえるように次のステップとして様々な活動に取り組んだ。

### 4.1 「とやまべいフォトコンテスト 2021」の開催

TOYAMA BAY SELFIE SPOT が富山湾岸各市町へ展開されたことから、その存在を知ってもらい、多くの人に実際にカメラスタンドを利用して富山湾との思い出の1枚を撮影してほしい、富山湾の豊かさや素晴らしさを実感してほしい、という願いを込めて「とやまべいフォトコンテスト 2021」を開催することを企画し、提案、実行へと動き始めた。

4月24日に開催された美しい富山湾クラブ総会にて、TOYAMA BAY SELFIE SPOT の展開後にフォトコンテストを開催することを提案した。その後、5月19日には富山湾岸各市町へフォトコンテスト開催の詳細を伝え、次の協力をお願いした。

#### 【協力内容】

- ・各市町ベスト賞となる賞を選定していただくこと
- ・市町ベスト賞の賞品を提供していただくこと
- ・フォトコンテスト PR用のパンフレットやポスターを設置させていただくこと

これらを各市町は快く引き受けていただき、ベストフォトスポットの選定を期限としていた6月初旬には市町ベスト賞の賞品案も提案していただいた。

6月から7月にかけてフォトコンテストの実施方法について詳細を決定していった。Instagram、Twitterを中心にSNSで「#とやまべい2021」をフォトコンテストへの応募作品として認めることになった。「#ToyamaSpot」はTOYAMA BAY SELFIE SPOTの共通のハッシュタグ、「#CoolHimi」「#CoolTakaoka」「#CoolImizu」「#CoolToyama」「#CoolNamerikawa」「#CoolUozu」「#CoolKurobe」「#CoolNyuzen」「#CoolAsahi」は各市町のハッシュタグ、「#ToyamaSpot」とともにカメラスタンド本体にも掲載している。これら「#とやまべい2021」「#ToyamaSpot」「#Cool〇〇」（〇〇は各市町名）の3種類のハッシュタグをフォトコンテストへの応募作品につけてもらうことで、フォトコンテストへの応募と同時に TOYAMA BAY SELFIE SPOT や各市町を発信する役割を果たすことにした。

フォトコンテストの賞として、トップとなる最優秀賞、各市町ベスト賞となる氷見賞、高岡賞、射水賞、富山賞、滑川賞、魚津賞、黒部賞、入善賞、朝日賞、学生が決定する学生賞、ベストカップル賞、ベストフレンド賞、ユーモア賞、全制覇賞を設けた。特別審査委員長にはフォトグラファーとして活躍されているイナガキヤスト氏に最優秀賞を決定していただくことになった。6月15日にはイナガキヤスト氏と初めての打ち合わせを行い、フォトコンテストが形として見えてくるようになった。

「とやまべいフォトコンテスト 2021」の開催期間を8月1日から10月31日までに設定し、開催初日に向けてプレスリリースの案内や広報活動の準備を重ねた。

そして8月1日には無事にSNSで「とやまべいフォトコンテスト 2021」を開始した。完成したばかりのTOYAMA BAY SELFIE SPOTの紹介やフォトコンテストについてSNSやホームページ、チラシ・ポスターを通じてPRをした。始まったばかりの頃は全く応募数が増えず、焦りの気持ちも出てきた。このようにゼロから始まった中、TOYAMA BAY SELFIE SPOTの存在を知っていただき、フォトコンテストに参加してくださるインフルエンサーの方や芸能人の方も出てきてくださった。

8月9日にはYouTube 富山の遊び場！TVさんにてTOYAMA BAY SELFIE SPOTを全制覇する企画が公開されたり、富山県住みます芸人のノビ山本さんが各カメラスタンドでギャグをした動画がSNSにアップされたりと少しずつTOYAMA BAY SELFIE SPOTを見つけていただき、発信してくださったおかげもあり、応募数も伸びていった。特に新型コロナウイルスも少しずつ落ち着き出した10月中旬から最終日の10月31日にかけては毎日のように何件もの応募をいただいた。新型コロナウイルスの感染状況からなかなか自由に外出が出来ない期間と重なったこともあり、PRの難しさ、参加の難しさがあった。

3ヶ月に渡り開催した「とやまべいフォトコンテスト 2021」は10月31日をもって終了した。11月に入ると学生で各SNSに応募していただいた写真や動画の集計活動を実施した。「#とやまべい 2021」を最重視し、ハッシュタグをもって応募作品とし、SNSでは鍵がついていないアカウントと対象とした。表-1の通り各SNSからでは、Instagramでは186件、Twitterでは48件、Facebookでは17件、合計で251件の応募があった。投稿数としては氷見市17件、高岡市53件、射水市54件、富山市16件、滑川市23件、魚津市36件、黒部市18件、入善町16件、朝日町18件である。これら全ての応募作品を審査対象としてフォトコンテストの審査を実施した。

表-1 各 SNS での応募数

|    | Instagram | Twitter | Facebook | 合計  |
|----|-----------|---------|----------|-----|
| 氷見 | 13        | 3       | 1        | 17  |
| 高岡 | 40        | 10      | 3        | 53  |
| 射水 | 45        | 7       | 1        | 54  |
| 富山 | 11        | 4       | 1        | 16  |
| 滑川 | 14        | 6       | 3        | 23  |
| 魚津 | 27        | 7       | 2        | 36  |
| 黒部 | 14        | 2       | 2        | 18  |
| 入善 | 11        | 4       | 1        | 16  |
| 朝日 | 10        | 5       | 3        | 18  |
| 合計 | 186       | 48      | 17       | 251 |

「#とやまべい 2021」の投稿からとやまべいフォトコンテスト 2021 の集計結果より 11 月 10 日筆者作成

11 月 10 日にはイナガキヤスト氏に作品データを渡し、最優秀賞の選考に入っていた。11 月 11 日には富山湾岸各市町と各観光協会に作品データを渡し、各市町ベスト賞の選考に入っていた。11 月 24 日を賞選考の締め切りとして最優秀賞は全て作品の中からベスト 5、各市町には対象市町の作品の中からベスト 5 を選定していただいた。ベスト 5 を選考していただいた理由としては、応募者本人と連絡がとれない場合や辞退された場合には繰り下げるため、5 作品を選んでいただいた。学生賞、ベストカップル賞、ベストフレンド賞、ユーモア賞は学生がよりふさわしいと考えた作品を選定した。

また、各賞の選定途中にはベストキッズ賞として賞を贈呈したいと感じさせてくれる作品に出会い、ベストキッズ賞を増設した。フォトコンテスト開催中、TOYAMA BAY SELFIE SPOT を全制覇していただいた 9 アカウントの方には全制覇賞として選定した。そして、12 月 1 日、7 日には入賞者に SNS の DM を利用して連絡をした。全ての方と連絡が取れ、12 月 21 日の美しい富山湾クラブ理事会にて表-2 の 15 作品と全制覇賞の 9 アカウントが入賞作品として正式決定となった。

表-2 とやまべいフォトコンテスト 2021 入賞作品一覧

| 最優秀賞   | 氷見賞  | 高岡賞  | 射水賞   | 富山賞  |
|--|--|--|---|--|
|   |   |   |   |   |
| 滑川賞  | 魚津賞  | 黒部賞  | 入善賞   | 朝日賞  |
|   |   |   |   |   |
| 学生賞  | ベストカップル賞   | ベストフレンド賞   | ベストキッズ賞   | ユーモア賞  |
|  |  |  |  |  |
| その他：全制覇賞 9アカウント  |  |  |   |  |

撮影者より紹介用に頂いたデータから Excel にて 2022 年 1 月 7 日筆者作成

各賞の賞品は以下の品を準備した。

最優秀賞は富山ガラス工房にてオーダーメイドで制作していただいた。

各市町賞はその市町の名品や体験チケットなどを提供していただいた。

学生賞、ベストカップル賞、ベストフレンド賞、ベストキッズ賞、ユーモア賞、全制覇賞の賞品は学生が富山県の特産品をはじめ、富山湾岸市町で販売されているものを中心にアイデアを出し合い、決定した。全制覇賞の賞品は複数の受賞者を想定していたため、5種類の賞品を用意することにした。

各賞の賞品は体験から物や食べ物までバラエティー溢れる賞品を揃えることができた。学生が決定した賞品は実際に製造や販売をしている企業とフォトコンテストの賞品としての使用や SNS での紹介等を含めて 10 月にコンタクトを取り、許可を得た上で実際に県内の販売所やお土産店などから 12 月、1 月に購入をした。

## 【賞品】

- ・最優秀賞 ガラスでつくられた波形の器とフォトフレームのセット
- ・氷見賞 氷見うどん
- ・高岡賞 Time And Space Stand 銀
- ・射水賞 新湊観光船万葉丸クルージングペアチケット
- ・富山賞 ペアグラス
- ・滑川賞 富山湾岸クルージング乗船券とキラリングッズ
- ・魚津賞 老舗の鯔銚セット
- ・黒部賞 食べ歩きクーポンとオリジナルノート
- ・入善賞 食事券付き入浴券とジャンボール3世グッズ
- ・朝日賞 ヒスイの勾玉
- ・学生賞 富山のKAGO
- ・ベストカップル賞 ペアチケット（魚津水族館、埋没林博物館、ファミリーパーク、潮風ギャラリー）
- ・ベストフレンド賞 とやまカード
- ・ベストキッズ賞 万葉線ドラえもんトラムのプラレール
- ・ユーモア賞 寿司ソックス
- ・全制覇賞<sup>1</sup> 富山米「富富富」と薬膳ふりかけセット  
富山もよりの詰め合わせ  
越中富山幸のこわけセット  
高岡ラムネを楽しむセット  
富山米のキューブ米セット



最優秀賞 賞品 2月16日筆者撮影

富山湾岸各市町や各企業の支えをいただきながら「とやまべいフォトコンテスト 2021」が実現し、大成功を成し遂げた。

「とやまべいフォトコンテスト 2021」の入賞者へ受賞決定の連絡や賞品の渡し方、公式 SNS での作品紹介の承諾についてなどのコンタクトを取っている。その中でも受賞者の方からは、下記のような新しい発見や次への期待の声が多数寄せられた。

---

<sup>1</sup> 全制覇賞は5種類のうち、1種類を贈呈している

#### 【受賞者からの声】

- ・「今回の企画で富山県内のドライブを存分に楽しませていただきました」
- ・「若い皆さんが先頭をきってアクションを起こし、富山の良さを発信してくれるのは本当に嬉しいことだと思います！」
- ・「県外の方はもちろんのこと、まずは富山県民が自分たちの県を知り、更に好きになってくれるような企画をまたお待ちしております」
- ・「このような素敵な企画に参加させていただき今まで知らなかった富山湾の絶景スポットを巡ることができプチ旅行気分を満喫しました」
- ・「セルフiesポットはこれからも何度も訪れたい場所ですいろいろな方にも知っていただきたいです」
- ・「撮影した日は富山湾岸サイクリングコースを走行していましたが、他のスポットでもスタンドを発見しました。写真を撮るのが大好きなサイクリストの需要も高いと思います！！」

## 4.2 「Discover TOYAMA」の合成機能アプリ開発と T-Messe への参加

TOYAMA BAY SELFIE SPOT では美しい富山湾を背景に自撮りを行うことができるが、天気の悪い日には海や空の色が暗く、綺麗な写真とはならない。そのため、公益社団法人とやま観光推進機構と富山県立大学電子情報工学専攻岩本研究室が開発している観光アプリ「Discover TOYAMA」を通してとやまの絶景フォトスポットを紹介するコンテンツを作っていた。このコンテンツの中には、富山大学の TOYAMA BAY SELFIE SPOT についての紹介やカメラスタンドの場所限定での写真合成機能によってバーチャル観光の実現が可能である。今回、このアプリを通して T-Messe（富山県ものづくり総合見本市）の DX 分野に出展することになった。

6月15日には富山大学と富山県立大学と打ち合わせを行い、7月30日には富山県情報産業協会より T-Messe への概要や展示方法についての説明、8月に入ってから数回に渡り全体での打ち合わせを通して準備を進めた。8月や9月は新型コロナウイルスの第5波として感染が広がりを見せていたこともあり、9月には T-Messe の開催はバーチャル開催としてオンラインで開催することに決定した。

T-Messe ではカメラスタンドを実際に体験し、「Discover TOYAMA」の合成機能を活用していただく予定であったが、オンライン開催となったため、バーチャル的にプロジェクトを紹介して体験してもらえよう展示内容が必要となった。動画での紹介を主として、付属資料としてチラシを展示ページに PDF で載せることになった。図-32 では展示ブース全般の紹介をまとめ、図-33 ではアプリ内の機能や T-Messe 期間中の限定機能についての紹介をしている。

図-32 チラシ 1 枚目



T-Messe で紹介用に富山県立大学岩本研究室作成

図-33 チラシ 2 枚目



図-34 では雲が多く、すっきりとしない空の元でカメラスタンドを利用して撮影した写真である。図-35 では「Discover TOYAMA」の合成機能を活用して撮影した写真である。どちらも魚津市の海の駅蟹気楼にある TOYAMA BAY SELFIE SPOT からの1枚ではあるが、写真の背景となる海と空の色が違っていることが明らかである。

図-34 天候が悪い時の実際の写真



10月27日カメラスタンドより撮影

図-35 合成機能を使った写真



10月27日「Discover TOYAMA」での合成機能にて撮影

さらに T-Messe の期間限定は週替わりでフォトグラファーのイナガキヤスト氏の写真と合成できる仕組みをつくり、話題を創出するとともに、アプリについての認知度や機能性をアピールした。

図-36 では入善町の舟見城址館 TOYAMA BAY SELFIE SPOT で撮影した写真、図-37 では同じ写真をイナガキヤスト氏の作品と合成した写真である。イナガキヤスト氏の写真との合成機能は T-Messe 期間中、どこからでも合成することが出来た。そのため、TOYAMA BAY SELFIE SPOT からは通常の写真、好天の日のような合成写真、イナガキヤスト氏の作品との合成写真の 3 通りを撮影することが可能となった。イナガキヤスト氏の迫力ある作品の中に入って写真を撮れる機会はなかなかないため、大変貴重な機会となった。

図-36 合成前の写真



10月27日カメラスタンドより撮影

図-37 合成後の写真



10月27日「Discover TOYAMA」T-Messe 限定機能にて合成撮影

富山県立大学がこの T-Messe に向けたアプリの機能開発を行っている中で富山大学では紹介用動画の素材や情報提供が主な役割となった。全 9 箇所の TOYAMA BAY SELFIE SPOT で撮影方法やアプリとの合成方法を紹介する動画を撮影した。動作だけでの説明は難しく、何度も撮り直したり、様々な角度からの撮影をしたりすることで最終的にまとめる素材をつかった。各団体がそれぞれ行っている活動を 1 つのプロジェクトとして出展することで新しい富山の魅力として創出する場となった。

10月28日から11月30日まで開催された T-Messe では、TOYAMA BAY SELFIE SPOT と「Discover TOYAMA」との合成機能が使えるようになり、バーチャルの展示ブースや YouTube で紹介動画が共有され、活動をアピールする場となった。

T-Messe 期間中、バーチャル展示コーナーには 201 名の方にアクセスしていただき、ページビューは 782 件、チラシは 16 ダウンロード、展示内での動画再生回数は 70 回となった。

また、「Discover TOYAMA」のアプリダウンロードは140件、アプリによる合成機能の利用者は約50件と活動を知っていただくことができた。

このプロジェクトの課題としてはチームとして期待していたよりも展示ブースの閲覧数やアプリのダウンロード数、合成機能の利用者など各数字が伸びなかったことである。PRに力を入れていくことが重要だと感じる機会になったと反省をした。T-Messeでは協同で出展したことで相互の活動を知り、長所を活かし、1つにまとめてプロジェクトとしたことから、今後も違う形でのコラボレーションとして実現することが期待できる新しい関係性が生まれた。

### 4.3 広報活動

TOYAMA BAY SELFIE SPOTの富山湾岸各市町への設置、「とやまべいフォトコンテスト2021」の開催、T-Messeへの共同出展では自らの活動をより多くの人たちに発信していくための広報活動を行った。特にTOYAMA BAY SELFIE SPOTと「とやまべいフォトコンテスト2021」では提案から実行に至るまで学生の手で創り上げる新しいことだらけの企画であったため、これらの広報活動は幅広く実施した。チラシやポスターの配布、新聞やフリーペーパーでの記事、行政の広報誌での掲載、SNSでの発信を通して世代を超えた発信に力を入れた。

#### 4.3-1 チラシ・ポスター

TOYAMA BAY SELFIE SPOTを紹介するチラシは氷見市比美乃江公園への設置の際とTOYAMA BAY SELFIE SPOTが富山湾岸で展開してフォトコンテストを開催する際の2度制作した。

まず、比美乃江公園TOYAMA BAY SELFIE SPOTを紹介する手段としてチラシを作成した。図-38のように「いい旅氷見旅ここにあり」とキャッチフレーズでアピールし、表面では写真と地図での紹介を入れた。図-39のように裏面では比美乃江公園展望台の紹介とTOYAMA BAY SELFIE SPOTでのおすすめ撮影方法、設置への経緯、お願いや注意事項を入れた。チラシとしてのデザインや構成は美しい富山湾クラブの事務局となっている株式会社PCOに作成していただき、チラシを完成させた。

氷見市でのお披露目の際には参加者に配り、広報素材として使用した。その後、チラシを氷見市役所に置いていただいた。簡単なチラシのイメージやキャッチフレーズは学生で考えた。しかし、構成や印刷、チラシの配布を含めて株式会社PCOに全て頼んでいたため、実際に学生はどこにどれだけのチラシがあるのか把握できていなかった。多くの場所に配置できなかったことが反省点となり、2度目のチラシ作りでは多く場所に置いていただけるように学生自らをお願いしようと決めて制作に取りかかった。

図-38 氷見 チラシ (表)



図-39 氷見 チラシ (裏)



学生のイメージを元に株式会社 PCO 作成

TOYAMA BAY SELFIE SPOT の富山湾岸展開と「とやまべいフォトコンテスト 2021」の紹介チラシの紙面では最低限の情報を載せ、詳細は QR コードからホームページや SNS へ飛べる仕組みで作成した。

図-40 の表面では 9 箇所の TOYAMA BAY SELFIE SPOT から見える風景を大きく写真で紹介し、簡単に「SELFIE SPOT とは」という形で紹介文を入れた。その他ホームページ、Instagram、Twitter、Facebook のアカウントの QR コードを入れてシンプルな作りにした。

図-41 の裏面では「とやまべいフォトコンテスト 2021」の案内用チラシとしてカメラスタンドの天板や富山湾の写真を背景として、参加方法や開催期間、募集テーマ、各賞の紹介、注意事項をまとめた。表面では白を基調としたシンプルな作りに対して裏面では富山湾の青を基調とした賑やかな作りにする事で、どちらの面で配置されていても手に取ってもらえるように工夫をした。

図-40 富山湾岸展開 チラシ (表)

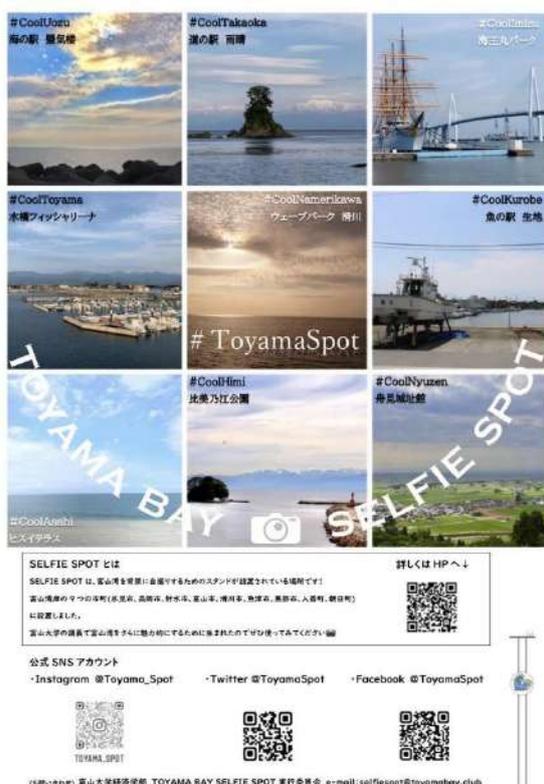


図-41 フォトコンテスト チラシ (裏)



TOYAMA BAY SELFIE SPOT プロジェクトメンバー作成

紙媒体として2度目の制作となった TOYAMA BAY SELFIE SPOT、「とやまべいフォトコンテスト 2021」の紹介物では A4 版の両面チラシと A2 版のポスターを同じデザインのもので作成した。注目してもらい、興味を持ってもらえるようにチラシは 10,000 部、ポスターは 100 部用意した。

チラシやポスターは TOYAMA BAY SELFIE SPOT の設置工事に合わせて富山湾岸各市町の役所、観光協会、近隣施設に配置のお願いを込めて手渡しした。その他にもあいの風とやま鉄道や富山地方鉄道、万葉線の公共交通関係、富山大学、学生の母校など県内様々な場所に配置させていただいた。チラシやポスターを見て SNS のフォローに繋がったり、実際に TOYAMA BAY SELFIE SPOT に足を運んでいただいたり、フォトコンテストに応募していただいたりして紙媒体での配布は現地を訪れた方に注目していただき、知っていただく機会の創出となった。

#### 4.3-2 新聞・フリーペーパー・行政広報誌

2020年12月18日に比美乃江公園展望台に完成した TOYAMA BAY SELFIE SPOT 第1号のお披露目をした際と2021年7月30日に9箇所 TOYAMA BAY SELFIE SPOT が完成した際にはプレスリリースを行った。事前に富山県庁の県政記者室へプレスリリース案内を行い、該当日の取材をお願いした。

12月の氷見市でのお披露目では比美乃江公園展望台で実施した。お披露目の日は雨や雪が降る中での開催だったため、予定していた内容よりも短縮で行った。氷見市林市長と実際に TOYAMA BAY SELFIE SPOT を使ってレクチャーし、紹介をした。図-42、図-43のようにカメラスタンドについての紹介や市長との自撮りの様子が記事となり、発信することができた。

図-42 北日本新聞



北日本新聞 2020年12月19日朝刊23面

図-43 富山新聞



富山新聞 2020年12月19日朝刊22面

7月の TOYAMA BAY SELFIE SPOT の完成報告では富山県庁県政記者室で実施した。カメラスタンド模型を使用してスタンド本体について、フォトコンテストを開催することについて紹介した。掲載用の写真はリストとして各市町で事前に撮影した写真を提供することになった。図-44の北日本新聞では氷見市での写真、図-45の富山新聞では富山市での写真、図-46の北陸中日新聞では富山市と射水市の写真が採用されることになり、各社の新聞を通して県内様々な TOYAMA BAY SELFIE SPOT で違った形の写真を撮れることを強調できる機会となった。

図-44 北日本新聞



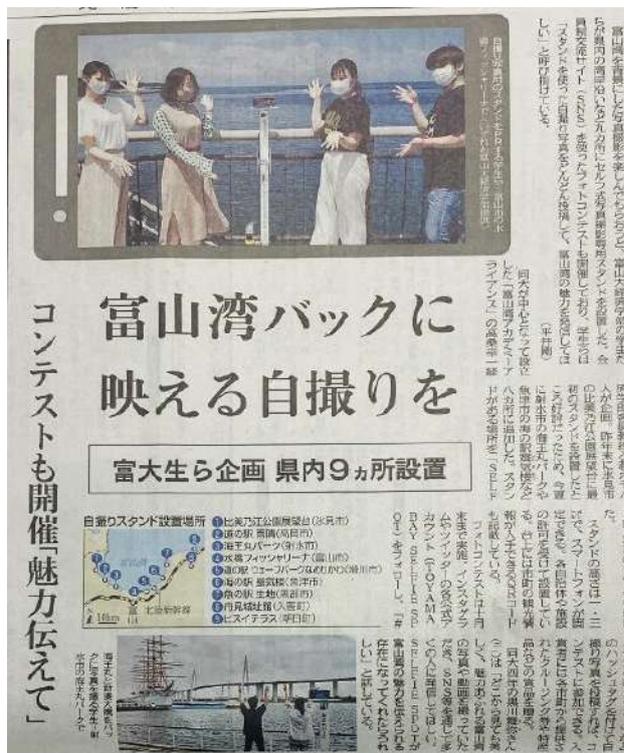
北日本新聞 2021年7月31日朝刊28面

図-45 富山新聞



富山新聞 2021年7月31日朝刊33面

図-46 北陸中日新聞



北陸中日新聞 2021年9月19日朝刊12面

プレスリリースした新聞記事以外にも4月24日の美しい富山湾クラブ総会での提案風景を図-47の形式で滑川の湾岸クルージング、魚津の蟹気楼とともに富山湾の魅力として記事にしていた。また、8月には図-48のような「自撮りスタンド人気・富山湾バックに写真撮影」という形で多くの人々が利用している様子が記事になった。

図-47 北日本新聞 自撮りスポット設置



北日本新聞 2021年4月25日朝刊

図-48 北日本新聞 自撮りスタンド人気



北日本新聞 2021年8月25日朝刊 23面

さらに図-49では、9月1日発行された「富山情報」のフリーペーパーにてTOYAMA BAY SELFIE SPOTを紹介した記事が掲載された。また図-50では、射水市が発行している広報誌「広報いみず」にて海王丸パーク TOYAMA BAY SELFIE SPOTの紹介ページを設けていただいた。プレスリリースとして発表する以外にも第三者の視点から取り上げていただける機会が増えることによって少しずつ知名度の上昇や活動への理解に繋がっていると感じさせてくれるきっかけとなった。

図-49 富山情報



富山情報 9.1 発行 vol.1140 P23

図-50 広報いみず



広報いみず 2021年9月号 P15

### 4.3-3 SNS

TOYAMA BAY SELFIE SPOT を多くの人に気軽に知ってもらえて、なおかつ自分たちの手で発信できる手段として TOYAMA BAY SELFIE SPOT の公式 SNS を 2020 年 12 月 8 日に開設した。様々な SNS が主流になっている中で、Instagram、Twitter、Facebook を使用した情報発信を行った。

氷見市の TOYAMA BAY SELFIE SPOT が設置された日からお披露目まで 1 週間あったため、1 週間毎日、氷見市 TOYAMA BAY SELFIE SPOT について投稿し、お披露目までのカウントダウンを行った。しかし、「フォロワー」や「いいね」が思うように伸びず、SNS 発信での難しさを痛感した。SNS での発信方法への工夫が必要だと考え、多くのハッシュタグをつけてヒットしてもらおう機会を増やすことや毎日投稿をすることで知ってもらえる機会を増やすことが必要だと SNS での様々な投稿を見て学んだ。

そこで、TOYAMA BAY SELFIE SPOT の現地調査を行っていた期間にあたる 6 月 17 日からフォトコンテストが終了した 11 月 2 日まで毎日投稿を実施した。ハッシュタグでは天板にも記載した「# ToyamaSpot」「# Cool○○」<sup>2</sup>だけではなく、「# 氷見」「# 富山県」「# 富山湾」「# フォト」など地名や趣味などからもアクセスしやすいように日々変化させながら投稿をした。ハッシュタグの効果もあり、開設当初では注目してもらえなかったような釣り人や写真が好きな人、富山県民や富山に興味がある人など多くの人に見てもらえるよう

<sup>2</sup> ○○には Himi、Takaoka、Imizu、Toyama、Namerikawa、Uozu、Kurobe、Nyuzen、Asahi の地名が入る

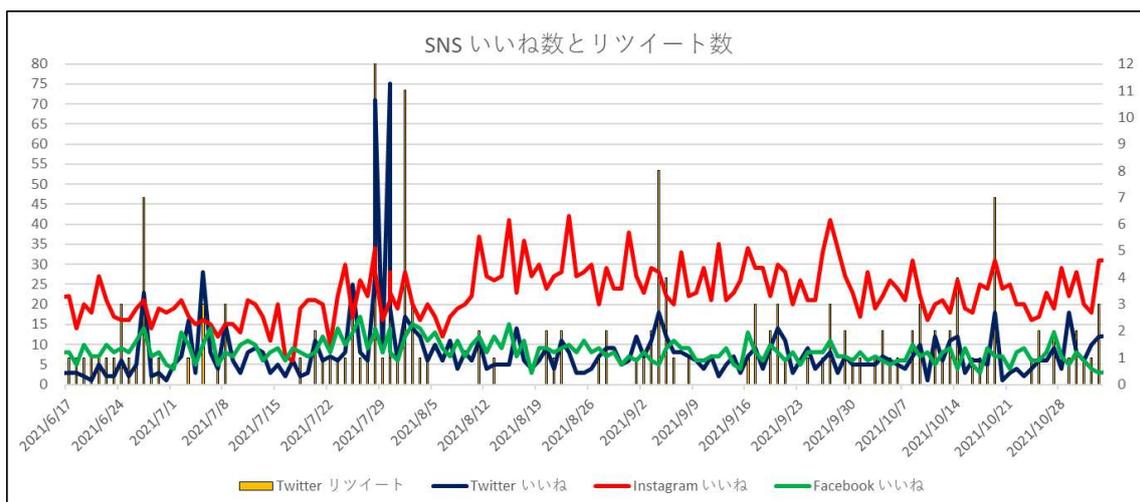
になった。さらに開設した当時は一桁が続いていたフォロワーも Instagram で 132、Twitter で 144、Facebook で 49 人（12 月 17 日確認）と大きく増やすこともできた。

グラフ-1 では、毎日投稿をしていた 2021 年 6 月 17 日から 2021 年 11 月 2 日までの投稿に対する各 SNS の「いいね」と Twitter における「リツイート」の数をまとめた。左側の縦軸は「いいね」の数、右側の縦軸は Twitter の「リツイート」の数の目盛りである。グラフより Twitter では「いいね」の多い投稿では「リツイート」も多い結果となっている。毎日異なる写真を心がけ、同じ投稿内容を各 SNS でアップした。

しかし、7 月 29 日周辺の投稿では Twitter で「いいね」や「リツイート」が多いことに対して Instagram での「いいね」は大きく伸びていない。Twitter ではチラシを公開した時や新しくカメラスタンドが出来たという話題性のある投稿が伸びているように分析する。一方で 8 月 12 日から 9 月 2 日周辺にかけての投稿では Instagram での「いいね」が多い日が続いていることに対して他の SNS では「いいね」が少ない。この期間はカメラスタンドの背景となる風景やカメラスタンドの紹介をしている。綺麗、美しい、楽しいと感じる写真が Instagram では伸びているように分析する。また、Instagram や Twitter での反響に対して Facebook では多くて「いいね」は 17 件であった。各 SNS で反響の違いは生じたものの、SNS を通して地域や世代、趣味を超えてあらゆる多くの人に発信することが可能となった。

SNS では身近な発信ツールとしての役割だけではなく、「とやまべいフォトコンテスト 2021」での受賞者への連絡手段としての役割を果たしている。SNS があることでより簡単に情報発信できる場を提供し、TOYAMA BAY SELFIE SPOT という存在を大きくアピールすることができた。

グラフ-1 SNS いいね数とリツイート数



公式 Instagram、Twitter、Facebook のエンゲージメントを元に Excel にて 2022 年 1 月 11 日筆者作成

## 5 これからの TOYAMA BAY SELFIE SPOT の役割とは

TOYAMA BAY SELFIE SPOT によって富山湾観光は横との繋がりを持てる観光資源へとステップアップした。観光船、サイクリング、TOYAMA BAY SELFIE SPOT のそれぞれの資源を活かして各自バラバラだった富山湾観光を 1 つの新しい観光プランとして打ち出すことができる。富山湾岸サイクリングコースを走行しながら各市町でのフォトスポットである TOYAMA BAY SELFIE SPOT で記念写真を撮り、さらに海沿いから観光船を通して富山湾を満喫し、そしてサイクリングを楽しみながら富山湾の新鮮な海の幸を食べる。このように富山湾の魅力を五感で感じながら満喫できる機会を創出できる。

また、富山湾の素敵な風景と自撮りができるようにしたいという思いから提案、企画、実行を通して TOYAMA BAY SELFIE SPOT プロジェクトを進めてきた。TOYAMA BAY SELFIE SPOT の存在によって従来とは異なった切り口からの新しい観光の形ができた。これまでは有名な観光地や美味しい食を求めて観光へ行くケースが多かったように考える。

しかし、コロナ禍ならではの観光として人が少ないところや落ち着いた場所へ行くこと、リフレッシュできる空間があるところが求めている。TOYAMA BAY SELFIE SPOT は、このようなニーズに応えられる観光資源である。富山県内に 9 箇所あるカメラスタンドの場所は人混みができるような場所ではないが、各所から見られる景色は自然を感じられ、ゆっくりとした時間が流れる場所である。そのため、サイクリングに限らず、車でも海沿いを走りながら TOYAMA BAY SELFIE SPOT 巡りをすることも富山県を横断できる新しい観光である。

さらには、TOYAMA BAY SELFIE SPOT 利用者が実際に撮影を楽しみ、写真や動画を SNS にあげることによって自らが富山湾の魅力の発信者になる。SNS での発信によって TOYAMA BAY SELFIE SPOT を知ってもらえるきっかけや富山湾、富山県を観光してみたいと思ってもらえるきっかけに繋がり、訪れてもらえるようになっていこう。観光協会や各観光地だけがその場所の発信者という形から、実際に訪れて SNS に投稿した人も発信者になっていく。地元の人、観光で訪れる人、興味を持ってくれた人全てが一緒になって発信していくことによって地域全体が盛り上がり、活性化することに繋がる。

カメラスタンドを富山湾岸に展開してから約半年が経つ。各市町の観光協会や地域の方からは「若い人がたくさん来るようになった」や「連日多くの方がカメラスタンドを使用している」という声も届くようになった。魅力溢れる富山湾に足を運んでいただける機会になったり、気軽に撮影を楽しんでもらえる場所になったりすることで TOYAMA BAY SELFIE SPOT は愛される場所になっていくと確信している。

富山湾観光として点と点で放っていた各地の魅力から線で結ばれた魅力となっていけるように、これからは TOYAMA BAY SELFIE SPOT が繋がる役割を果たしてほしいと強く願っている。さらに多くの人に知ってもらい、使ってもらい、発信してもらえる TOYAMA BAY SELFIE SPOT になってほしい。

## 6 このプロジェクトに参加して

提案段階から今日まで数々の貴重な経験をさせていただきました。

2019年の現地調査で富山湾や氷見の素敵な風景と自撮りをした際、バランス良く撮影できなかったことが最初のきっかけでした。1つのアイデアだったカメラスタンドが翌年に実現するなんて当時は想像もしていませんでした。そのため、TOYAMA BAY SELFIE SPOT が完成した時の感動は今でも忘れられません。それから富山湾岸各市町に設置させていただき、フォトコンテストに至るまで沢山の方々の手を借りながら活動をやり遂げることができました。今では9箇所全てがお気に入りの場所です。

TOYAMA BAY SELFIE SPOT のプロジェクトを一緒に頑張り、苦楽を共に味わった学生の皆さん、学生の要望やわがままにに応じていただき、ご協力していただきました富山湾岸各市町の担当者の皆様、設置や賞品、広報など多様な面から支えていただきました企業の皆様、美しい富山湾クラブの皆様、誠にありがとうございました。

これから、TOYAMA BAY SELFIE SPOT がさらに活躍していくことを願っています。

(4年 黒川 舞弥)

この活動の総括として、まずは関わっていただいた多くの方への感謝を申し上げたいと思います。多くの方のご協力のもとこの活動をここまで続けることができました。ありがとうございました。

スマホで絶景を背景に写真を撮りたいというアイデアから、市町への提案、現地調査から実際の設置まで多くの月日が流れました。その中で市町様や設置業者様との綿密なやりとりを重ね、その中で新たな視点を学び取り課題を見つけトライしていく。その工程が何よりも濃い経験となりました。

また、富山湾岸 9 市町設置後に行ったフォトコンテストでは多くの方からのご応募を賜り、自分たちの活動が多くの方の思い出に残るものになったことが確認できました。

机上から始まった提案が実際に形に残るものとなったことを大変うれしく思います。

(4年 稲垣 智也)

この事業を進める中で、多くの学びや出会いがありました。また、想像以上の戸惑いや困難もありました。こうした困難も含めて、貴重な経験をさせていただいたことに感謝します。また、学生の気持ちに応えようと多くの方々にご協力いただきました。皆様のご協力のおかげで、私たちの想いを形にすることができました。ありがとうございました。

セルフiesポットを利用していただき、富山県の良さが広がって行けば嬉しいです。これからも多くの方々にセルフiesポットを使っていただきたいと思います。

この経験で学んだことを社会人になっても活かしていきたいと思います。

(4年 滝谷 茉由)

富山県外出身者として力になりたいと思い、約1年半このプロジェクトに取り組みました。初めてのことが多くわからないことだらけでしたが、メンバーとたくさん議論を重ねて試行錯誤しながら取り組んできました。何度も現地調査を行い、県内を巡るなかで富山県が大好きになりました。大変なことが多かった分、SELFIE SPOT を利用している方の姿を見たときはとても感動しました。とやまべいフォトコンテストでは、友人や家族と利用して下さっている姿や笑顔の写真をたくさん見ることができ、嬉しかったです。また、このメンバーでプロジェクトに取り組むことができ良かったです。

これからも TOYAMA BAY SELFIE SPOT が富山の魅力発信の拠点や富山湾観光のきっかけとして、多くの方に利用していただけることを願っています。

最後に、各市町のご担当者様、このプロジェクトに携わっていただいた皆様、メンバーに多くのサポートをいただきながら、9市町への設置とフォトコンテストを実行することができました。本当にありがとうございました。

(4年 安司 琴音)

普段受ける授業とは少し違うものを履修してみよう、という軽い気持ちで受講した特殊講義で、ここまで幅広い活動を行うとは考えもしませんでした。初めは壮大な計画で右も左も分からず、ただ話を聞いては変わってゆく状況に食らいつくの必死だったことを覚えています。日々の苦しみで心を壊し、1度は諦めかけたこの活動に「やめたくない」「どうにか役に立ちたい」という思いを抱けたのは、自分の目で焼き付けた富山湾の美しさと、何度も助けてくださった班の皆さんのおかげでした。この活動を通して、社会の荒波に折れない精神と、人が差し伸べてくる手のあたたかさを知ることができました。沢山の人の優しさと繋がりでできたフォトスポットに、今後より多くの人を訪れて、海の美しさを知ることが出来たらと思っています。

(3年 北川 ひろか)

僕は関西出身であり富山県の魅力など知らなかったけど知れてよかったです。先輩方も心強く、相談などしたときにもすぐに返信してくれて助けていただきました。学校外との関わりを持つことができ、とても良い経験になったと思います。

また、様々な方の話を聞くことができ観光業の現状や難しさなども知ることができました。ありがとうございました！

(3年 香川 拓也)

SELFIE SPOT の現地調査や、フォトコンテストの資料作りなど、初めての事ばかりでしたが、メンバーと協力して無事にカメラスタンドを設置することが出来て嬉しかったです。また、フォトコンテストを開催して多くの方々に富山湾の素晴らしさを知って貰えて良かったです。私自身もプロジェクトに関わって改めて富山湾の素晴らしさを感じる事が出来ました。とても貴重な経験になりました。これからも多くの皆様にカメラスタンドを利用していただいてより魅力的な富山湾になってほしいです。

(2年 高本 彩聖)

半年間でしたが、セルフiesポットの活動に参加して他のグループでは経験できない機会を沢山得られました。

セルフiesポットの活動は、県や市町村への申請や立地箇所の確認・連絡などほとんどが先輩達に頼りきりであり、自分の不甲斐なさを実感しました。ただテキパキと動く先輩方の姿から短い期間の中での動きや連絡のとり方などを学ばせて頂きました。実際、インターンシップでも役に立っていると感じています。

短い期間でしたが、TOYAMA BAY SELFIE SPOT の活動に参加出来て本当によかったです！

(2年 高木 美優)

僕は富山県出身ということもあり県内にある有名な観光地については殆ど認知しているつもりでした。しかし今回の TOYAMA BAY SELFIE SPOT の活動を通しまだ広く認知されていない観光地について知ることができた他、既存の観光地をどのように活かし発展させていくべきか考えるための良い機会となりました。そのため今後は県内の観光地や地域行政が個別に取り組みを行うのではなく、より広い枠組みの中で地域行政と連携することが地域の活性化に繋がると思いました。

(2年 藤田 大輔)

## 7 感謝と展望



### ・学生への感謝

美しい富山湾クラブでは2016年10月より富山大学経済学部へ寄付講座「地域観光資源の活用」を開設し、学生に富山湾岸の魅力を紹介するとともに、学生はさらによくする提案を検討しています。

2019年度後期の授業で学生から各地のフォトスポットにカメラスタンドを設置する提案があり、2020年度に具体的に検討し氷見市の比美乃江公園展望台に設置、2021年度前期には富山湾岸全域に展開、そして後期にフォトコンテストを開催してくれました。

学生たちは専門家を集めた実行委員会にカメラスタンドのデザインや設置場所を提案し、富山県や美しい富山湾クラブに補助申請を提出し、市役所や観光協会に依頼し、具体的かつ着実に実施してくれた。

限られた予算を使って、大勢の関係個所と根回しをして実施するなど、よくやってくれました。とても大変だったと思いますが、学生の実施した結果は形として残るとともに、学生自身の大きな成長につながったと思います。

この経験を活かして卒業してからも社会のために大きく羽ばたいて活躍してくれることを期待します。

### ・お世話になった皆様への感謝と展望

学生たちの取組に対し、温かくご指導を頂くとともに、補助や賞品提供、制作、設置場所の提供や設置後の寄付受け入れなど、多くの皆様に変なお世話になり誠にありがとうございました。

学生たちが「TOYAMA BAY SELFIE SPOT」と名付けたカメラスタンドは、多くの観光客を集め、撮影された幸せな自画像は背景の富山湾の風景とともにSNSを通じて国内外に発信されています。「TOYAMA BAY SELFIE SPOT」には「世界で最も美しい湾クラブ」と「美しい富山湾」のロゴも取り付けてあり、富山湾が世界に認められた美しい湾であることを表現しています。

今後の展望ですが、富山湾岸各所に設置された「TOYAMA BAY SELFIE SPOT」を活用して、湾岸各市町が連携していろいろな取り組みが行われ、富山湾ブランドがさらに向上することを期待しています。

「観光」とは光を観ると表記されるように、素晴らしいものに出会う事です。

「TOYAMA BAY SELFIE SPOT」を、まずは地元の人が使って富山湾のすばらしさを再認識して誇りに感じるとともに、その魅力を世界に向けて発信し、多くの人を訪れて「いい所だね」と言って頂けることによって地元の人々の誇りがさらに高まる、といった素敵なスパイラルが回ってくれたら、設置した学生にとってとてもうれしい事だと思っています。本当にありがとうございました。

富山大学客員教授 美しい富山湾クラブ理事・事務局長 高桑幸一

## 収支決算（2020 年度）

### 【収入】

| 区分        | 金額      | 内訳                  |
|-----------|---------|---------------------|
| 富山県補助金    | 200,000 | 世界で最も美しい富山湾活用事業費補助金 |
| 美しい富山湾クラブ | 203,737 |                     |
| 計         | 403,737 |                     |

### 【支出】

| 区分     | 金額      | 内訳                                  |
|--------|---------|-------------------------------------|
| 制作費    | 185,780 | カメラスタンド本体、パネル、表示加工、設置工事、カメラスタンドデザイン |
| 広報費    | 93,500  | チラシデザイン、チラシ印刷                       |
| 事務費    | 85,525  | 実行委員会準備、運営、管理費                      |
| 旅費・交通費 | 38,922  | 交通費（37 円/km）、電車（1820 円×5 回）         |
| 計      | 403,737 |                                     |

## 収支決算（2021 年度）

### 【収入】

| 区分        | 金額        | 内訳                  |
|-----------|-----------|---------------------|
| 富山県補助金    | 200,000   | 世界で最も美しい富山湾活用事業費補助金 |
| 美しい富山湾クラブ | 1,018,885 |                     |
| 計         | 1,218,885 |                     |

### 【支出】

| 区分     | 金額        | 内訳   |
|--------|-----------|--|
| 制作費    | 837,400   | カメラスタンド設置 8 箇所、材料                          |
| 広報費    | 161,529   | チラシ・ポスター作成、フォトコンテスト賞品購入・発送、最優秀賞選定謝礼、動画制作謝礼 |
| 事務費    | 59,025    | 実行委員会準備、運営、報告書作成                           |
| 旅費・交通費 | 160,931   | 交通費（37 円/km）、高速道路代、駐車場代                    |
| 計      | 1,218,885 |  |

## 謝辞

TOYAMA BAY SELFIE SPOT のプロジェクトを多様な面から支えていただき、ご協力いただきました関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

|                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 美しい富山湾クラブ            | 有限会社真栄工芸          |
| 富山県観光振興室美しい富山湾活用・保全課 | 株式会社 PCO          |
| 氷見市観光交流課             | 公益社団法人とやま観光推進機構   |
| 一般社団法人氷見市観光協会        | 富山県立大学            |
| 高岡市観光交流課             | 一般社団法人富山県情報産業協会   |
| 公益社団法人高岡市観光協会        | あいの風とやま鉄道株式会社     |
| 射水市港湾・観光課            | 富山地方鉄道株式会社        |
| 一般社団法人射水市観光協会        | 万葉線株式会社           |
| 富山市観光政策課             | 宇奈月温泉 延楽          |
| 富山市観光協会              | 富山ガラス工房           |
| 滑川市観光課               | 株式会社スカイインテック広報事業部 |
| 滑川市観光協会              | 魚津水族館             |
| 魚津市商工観光課             | 富山市ファミリーパーク       |
| 魚津市観光協会              | 氷見市潮風ギャラリー        |
| 黒部市商工観光課             | 富山県いきいき物産株式会社     |
| 一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局    | 助野株式会社            |
| 入善町キラキラ商工観光課         | 株式会社能作            |
| 入善町観光物産協会            | JA うおづ            |
| 朝日町商工観光課             | 株式会社大空            |
| 一般社団法人朝日町観光協会        | 大野屋               |
| 道の駅雨晴                | 株式会社タカラトミー        |
| 公益社団法人伏木富山港・海王丸財団    | 株式会社北日本新聞社        |
| NPO 法人浦島倶楽部          | 株式会社北國新聞社         |
| 株式会社 WAVE 滑川         | 株式会社中日新聞社         |
| 株式会社魚津シーサイドプラザ       | 株式会社カラフルカンパニー     |
| くろべ漁業協同組合            | ラクスル株式会社          |
| 舟見城址館                | 富山大学芸術文化学部 清水先生   |
| ヒスイ海岸観光交流拠点施設ヒスイテラス  | 富山大学工学部 唐先生       |
| 富山県富山新港管理局           | 富山大学都市デザイン学部 安江先生 |
| 富山県新川土木センター          | イナガキヤスト氏          |
| 氷見漁港場外市場ひみ番屋街        | 樋口幸男氏 (ばいにゃこさん)   |



筆者 富山湾アカデミーアライアンス  
TOYAMA BAY SELFIE SPOT 実行委員会  
富山大学経済学部4年 黒川舞弥  
e-mail : [selfiespot@toyamabay.club](mailto:selfiespot@toyamabay.club)



